

特定原子力施設監視・評価検討会における  
『過去のコメントへの対応状況』について

2023年3月20日

---



東京電力ホールディングス株式会社

## 特定原子力施設監視・評価検討会における『過去のコメントへの対応状況』のまとめ

---

- 『過去コメントへの対応状況』について対応が必要なもの：47件  
(第105回特定原子力施設監視・評価検討会(2月20日時点))

### 【内訳】

「2022年度下期に回答を求めるもの」	: 27件
「2023年度上期に回答を求めるもの」	: 18件
「2022年度下期までの回答が困難なもの」	: 0件
「原子力規制委員会で方針を検討後に扱うもの」	: 2件

このうち、

- 2022年度末までに回答の用意ができるもの：7件/27件 (P3~P4参照)
- 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメント：6件<sup>※1</sup>/27件 (P6~P9参照)

※1 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメント

- ・2023年4月 : 1件 (令和4年3月16日地震影響に関するコメント回答)
- ・2023年5月 : 1件 (タンク内未処理処理に関するコメント回答)
- ・2023年6月 : 1件 (ALPSスラリー安定化処理設備設置に関するコメント回答)
- ・2023年8月 : 1件 (令和4年3月16日地震影響に関するコメント回答)
- ・2023年9月 : 1件 (ゼオライト土嚢に関するコメント回答)
- ・今後回答予定 : 1件 (ALPSスラリー安定化処理設備設置における実施計画変更認可申請の補正対応)

- 第106回特定原子力施設監視・評価検討会(3月20日)で回答：7件/27件 (P11~P12参照)
- 第105回特定原子力施設監視・評価検討会(2月20日)で回答：11件 (P14~P16参照)  
「2022年度下期に回答を求めるもの」：5件/27件  
「2023年度上期に回答を求めるもの」：6件/18件
- 第5回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合(2月1日)で回答：2件/27件 (P18参照)

- 
1. 2022年度末までに回答の用意ができるもの
  2. 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメントの対応状況等
  3. 第106回特定原子力施設監視・評価検討会で回答
  4. 第105回特定原子力施設監視・評価検討会で回答
  5. 第5回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合で回答

# 1. 2022年度末までに回答の用意ができるもの

- 「2022年度末までに回答の用意ができるもの」の7件について、表の通り、対応状況等を示す。

表 『固形状の放射性物質』に関するコメントへの対応状況等 一覧

分類	コメント内容	回答時期	対応状況
1 分析計画の策定	分析計画の策定に当たっては、廃棄物の適切な保管管理のあり方を並行して検討した上で、長期的な視点から全体を見通せるものを示すとともにマネージメントの体制やマイルストーン（ホールドポイント、チェックポイントを含む）も含めて示すこと。 (第102回、第104回)	2023年 3月	<b>2023年3月末に分析計画を策定予定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>本年度検討している分析計画では、保管管理の方法、再利用・処分への対応等を仮定し、概算の分析内容、分析数を推定している。検討は、関係機関（JAEA等）と調整・情報共有しながら進めている。</li> <li>来年度以降、廃棄物毎に具体的中長期的対策と併せて分析の詳細計画の具体化、議論を進めていくことを想定している。検討にあたっては適切な体制、QMSを構築して進めるものとする。</li> </ul>
	分析ニーズについて、早期に対応する必要がある廃棄物と燃料デブリを分けて、特定の施設に着目して具体的な分析計画を策定すること。また第三者機関による確認も分析組織を検討する際に含めること。 (第104回)	2023年 3月	<b>2023年3月末に分析計画を策定予定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>分析計画は廃棄物毎の特性、保管状況等を踏まえた優先度を設定して検討しており、3月中に策定。</li> <li>特定施設を対象とした分析計画については、廃棄物処理建屋等を候補として検討中。</li> <li>第三者確認（品質管理）については、将来、東電、JAEA大熊、JAEA茨城地区など複数個所で分析することによるデータの品質管理方法として今後検討を進める。</li> </ul>
3 廃棄物の保管管理	廃棄物毎の分析計画策定においては、それぞれの発生量（大枠）を早急に示すとともに、いつまでに一時保管を終了させ、より安定な状態での保管を目指すのかを、具体的な事例をもとに示すこと。 (第102回)	2023年 3月	<b>2023年3月末に分析計画を策定予定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>瓦礫類の屋外一時保管解消は中長期ロードマップの通り、2028年度内を目標に進めている。廃棄物発生量については、燃料取り出し準備工事等で発生するものなど、一部お示ししたが、今後の廃炉作業の進捗状況や計画等により変動するものであり、適宜保管管理計画を更新していく。並行して廃棄物毎の分析計画の策定を進めており、分析を進めつつ1F構内における保管基準について検討を進める。</li> <li>分析計画は廃棄物毎の特性、保管状況等を踏まえた優先度を設定して検討しており、3月中に策定。</li> <li>特定施設を対象とした分析計画については、廃棄物処理建屋等を候補として検討中。</li> </ul>

# 1. 2022年度末までに回答の用意ができるもの

表 『固形状の放射性物質』に関するコメントへの対応状況等 一覧

分類	コメント内容	回答時期	対応状況
4	ゼオライト取り出し時の遮へい設計、閉じ込め設計などの安全設計について示すとともに、設計諸元の設定など設計から製作などのプロセスにおいて重要な事項を決めるタイミングを整理して全体スケジュールとして示すこと。 (第98回、第99回)	2023年 3月 実施計画変更認可申請時の面談にて説明予定	<b>第5回1F技術会合（2023年2月1日）にて説明済 今後、実施計画変更認可申請時の面談にて説明予定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第5回1 F 技術会合にて、遮へい設計や閉じ込め設計などの安全設計について、実施計画変更認可申請前に、現状の整理状況を説明済。</li> <li>大きな論点となる閉じ込め設計については、開放状態でゼオライトなどを直接扱わないこととする予定であり、作業エリアはダスト管理エリアとする方針としている。</li> <li>重要な事項を決めるタイミングを整理した全体スケジュールも合わせて、2023年3月の実施計画変更認可申請時に改めて説明する。</li> </ul>
5	ゼオライト土嚢等の処理 核燃料施設等の閉じ込め機能に係る基準要求のうち出来ないもの及びその理由を示すとともに、設備設計に際しては、どのような不具合が発生しうるのか、不具合が発生した場合にどう対応するのかについても網羅的に評価すること。 (第99回)	2023年 3月 実施計画変更認可申請時の面談にて説明予定	<b>第5回1F技術会合（2023年2月1日）にて説明済 今後、実施計画変更認可申請時の面談にて説明予定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第5回1 F 技術会合にて、使用施設等の位置、構造及び設備の基準に関する規則の解釈の閉じ込め機能の現状の整理状況を説明しており、2023年3月の実施計画変更認可申請時に改めて説明する。</li> <li>不具合対応については、第5回1 F 技術会合にて、現状の対応方針を説明済。今後モックアップ等において確認していくとともに、類似案件の再発防止対策も講じていく。</li> </ul>
6	脱水等の運用方法や実現性、保管年数、再取り出し等を十分に考慮した上で、保管容器の具体的な設計を検討すること。 (第99回)	2023年 3月 実施計画変更認可申請時の面談にて説明予定	<b>第5回1F技術会合（2023年2月1日）にて説明済 実施計画変更認可申請時の面談にて説明予定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第5回1 F 技術会合にて、ゼオライト保管容器の現在の設計を説明しており、2023年3月の実施計画変更申請時に改めて説明する。</li> </ul>
7	実施計画申請の際には、核燃料施設等に対する規制基準に対して整理して説明すること、また、要素試験やモックアップのスケジュールと申請内容との関係、PMB とHTIで使用される設備の特性、搬出等運用面を含めた作業工程を示すこと。 (第103回)	2023年 3月 実施計画変更認可申請時の面談にて説明予定	<b>第5回1F技術会合（2023年2月1日）にて説明済 実施計画変更認可申請時の面談にて説明予定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第5回1 F 技術会合にて、核燃料施設等に対する規制基準の閉じ込め機能に関する整理状況を説明済。</li> <li>核燃料施設等に対する規制基準の全体を整理した説明及び全体スケジュールについては2023年3月の実施計画変更認可申請時に改めて説明する。</li> </ul>

- 
1. 2022年度末までに回答の用意ができるもの
  2. 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメントの対応状況等
  3. 第106回特定原子力施設監視・評価検討会で回答
  4. 第105回特定原子力施設監視・評価検討会で回答
  5. 第5回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合で回答

## 2. 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメントの対応状況等

- 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメント6件について、表の通り、対応状況等を示す。

表 『液状の放射性物質』に関するコメントへの対応状況等 一覧

分類	コメント内容	回答時期	対応状況	回答時期が遅れた理由
1 タンク内未処理水の処理	H2エリアの濃縮廃液（炭酸塩スラリー主体）について、ALPS スラリー同様に保管期間中に底部に沈降している可能性を考慮した上で、当該濃縮廃液の脱水処理の実現性を説明すること。（第102回）	2023年5月	<b>今後説明予定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>H2エリアと同様に長期間保管されているスラリーを貯留するCエリアからスラリーの移送作業を計画しており、当該作業からスラリーの移送性を確認する。</li> <li>また、H2エリアスラリーの脱水性に関しては、模擬スラリーを用いた脱水性を確認している。</li> <li>上記の結果を2023年5月に説明予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>濃縮廃液の脱水処理の実現性については、H2エリアからスラリー安定化処理設備までの移送性確認とフィルタープレスでの脱水性確認の2点にて確認する計画である。</li> <li>脱水性確認については、2023年2月に確認を終えている。</li> <li>移送性確認については、移送時の被ばく低減対策に時間を要し、予定よりも1ヶ月程度後ろ倒しとなった為、遅延となった。</li> </ul>

## 2. 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメントの対応状況等

表 『固形状の放射性物質』に関するコメントへの対応状況等 一覧

分類	コメント内容	回答時期	対応状況	回答時期が遅れた理由
2	スラリー安定化設備に係る閉じ込め等の安全設計について、根拠を示した上で考え方を説明するとともに、提出された実施計画変更認可申請において不足している内容については、速やかに補正を提出すること。 (第88回)	今後、1F技術会合等で議論を行い、対応していく	<b>今後1F技術会合等で議論を行い、基本設計ならびに耐震設計内容を固めていく</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの特定原子力施設監視・評価検討会等で原子力規制庁殿より頂いたご指摘を踏まえ、グローブボックス内で取扱えるようフィルタープレス機本体の小型・簡素化の検討を行う方針に変更。</li> <li>設計変更に伴い、機器の適用性・成立性検証を2023年度に実施し、設備設計を進める計画。設備設計がある程度まとまった後に、建屋の再設計を行うため、建屋の設計完了が2024年度になる見込み。</li> <li>基本設計ならびに耐震設計内容が固まり次第、補正申請の対応を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、グローブボックス内で扱えるフィルタープレス機の小型・簡素化に向けた設計変更の検討を実施中。</li> <li>今後、技術会合で耐震設計及び閉じ込め機能に関する議論を実施予定。</li> <li>技術会合での議論を踏まえた上で、2024年度に補正申請を行う計画である為、遅延となった。</li> </ul>
3	ALPSスラリーの安定化処理 スラリー移し替え作業から得られた情報を整理・検討した上で、①スラリーの抜き出しの実現性（下部スラリーが抜き出せない場合の洗浄による抜き出しの実現性を含む）、②上澄み水と下部スラリーに分離している場合のフィルタープレス機による脱水の実現性について説明すること。また、コールドのモックアップ試験を含めて具体的な時期（いつ何をするか、いつ資料が提出できるのかなど）を明確に説明すること。その際、試験の試料がスラリーの実性状を適切に模擬できていることを示すこと。 (第102回)	2023年6月	<b>今後説明予定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第103回検討会にて、①および②を説明済。</li> <li>抜き出し装置のモックアップの工程は、HIC底部スラリーの状態（固化の有無）の確認を現在実施しており、その結果を踏まえ、モックアップ試験計画を2023年6月に説明予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高線量HICの移替え作業に影響を与えないよう、移替え作業の進捗を見ながらスラリーの状態（固化の有無）の確認を実施していることから、想定よりも遅れている状況。</li> <li>複数基のHICについて状態の確認を5月頃まで実施する為、遅延となった。</li> </ul>



## 2. 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメントの対応状況等

表 『固形状の放射性物質』に関するコメントへの対応状況等 一覧

分類	コメント内容	回答時期	対応状況	回答時期が遅れた理由
4 ゼオライト土囊等の処理	回収機器の信頼性向上、不調時の代替機確保、実証実験により明らかとなる課題の解決などの実現方策を具体化すること。 (第98回)	2023年9月 モックアップ等で確認後、説明予定	<b>第5回1F技術会合（2023年2月1日）にて説明済 今後のモックアップ等を通して、不具合事象に備えた対応策を固めていく</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第5回1F技術会合にて、不具合対応について、現状の対応方針を説明済。</li> <li>現在、ROV故障、ケーブルの引っ掛かり等の不具合事象に備えた対応策について検討を進めており、今後モックアップの中で確認していく。</li> <li>また、類似案件の不具合発生事例も踏まえた再発防止対策を検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月1日の技術会合で大きな方向性を説明。</li> <li>現在、不具合事象に備えた対応策について検討を進めており、今後8月頃より開始するモックアップの中で確認していく。</li> <li>また、モックアップの中で明らかとなる課題に対しても実現方策を検討をしていく為、報告は9月に遅延となる。</li> </ul>

## 2. 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメント対応状況等

表 『その他』に関するコメントへの対応状況等 一覧

	分類	コメント内容	回答時期	対応状況	回答時期が遅れた理由
5	令和4年3月16日の福島県沖地震に係る対応	設備の健全性及び建屋の劣化状況等を評価するとともに、解放基盤表面での地震動や地盤応答の増幅特性などを分析・評価し、現在設計で用いている地震動・地盤モデル等の妥当性を検証すること。また、施設・設備の健全性評価に当たっては、全体工程を示した上で、昨年2月の地震との特性の違い（卓越する周期や方向などの違い）やはぎとり波の評価結果を考慮して実施すること。 (第99回、第100回)	2023年8月	<p><b>第100回検討会（2022年6月20日）にて、建屋健全性の確認結果、解放基盤表面の地震動（はぎとり波）と設計地震動の比較結果を説明済</b></p> <p><b>第100回検討会（2022年6月20日）にて、解放基盤表面の地震動（はぎとり波）を評価し、現在設計で用いている地震動との比較を実施。Ss900で完全包絡する結果が得られたことを説明済</b></p> <p>地盤モデル（タンクエリア）の妥当性の確認については、評価に用いてきた地盤応答解析において地盤標高の設定誤りが確認されたことから、現在は評価の見直しを進めている。</p> <p>地盤モデル（タンクエリア）の妥当性の確認結果が全て完了する時期は7月になる見込みであり、報告は8月を予定。</p> <p><b>第101回検討会（2022年7月25日）にて、3月16日地震動に対する影響評価・耐震評価の工程を説明済</b></p> <p>地盤、建屋の応答解析、設備の評価を順次進めていたが、評価に用いてきた地盤応答解析において地盤標高の設定誤りが確認されたことから、現在は評価の見直しを進めている。</p> <p>設備の評価が全て完了する時期は7月になる見込みであり、報告は8月を予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで設備の健全性等に関する評価を進めてきたが、評価に用いてきた地盤応答解析において地盤標高の設定誤りが確認された。</li> <li>事象を踏まえ、再評価が必要になったため、遅延となった。</li> </ul>
6		はぎとり波が一部周期帯で1/2Ssを超えていることから、既設設備については優先順位を考慮した上で、その健全性を早期に確認すること。また、現在審査中のB+設備については、本影響の評価を行うなど、耐震設計において考慮すること。 (第100回、第101回)	2023年4月	<p><b>第101回検討会（2022年7月25日）にて、3月16日地震動の卓越周期帯に固有周期を有する設備の影響評価を説明済</b></p> <p>簡易評価に必要な床応答スペクトルの作成及び詳細点検の完了に時間を要し、地震影響確認についても2月末まで時間を要した。</p> <p>現在、報告を取り纏め中であり、報告は4月を予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当初、対象設備の全てを解放基盤波を用いて簡易評価することを計画していたが、粗い評価となるため、建屋応答も用いて簡易評価する方針に変更した。</li> <li>このため、使用済燃料共用プール建屋と5号機原子炉建屋の応答解析に3ヶ月、床応答スペクトル作成に1か月、計4ヶ月追加で期間を要したことから、遅延となった。</li> </ul>

- 
1. 2022年度末までに回答の用意ができるもの
  2. 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメントの回答時期と対応状況
  3. 第106回特定原子力施設監視・評価検討会で回答
  4. 第105回特定原子力施設監視・評価検討会で回答
  5. 第5回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合で回答

### 3. 第106回特定原子力施設監視・評価検討会で回答

- 第106回特定原子力施設監視・評価検討会において、表の通り、各資料でコメントを回答する。

	分類	コメント内容	回答	資料
1	建屋 滞留 水の 処理	建屋内スラッジへの対応について、検討すること。 (第78回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>建屋内スラッジの回収・処理は高線量下での作業となるため、遠隔装置での回収を実現可能とする工法を検討中。</li> <li>現在、建屋内スラッジの採取・分析等により、スラッジの性状把握を進めている状況。</li> <li>同様の高線量下での環境における作業である除染装置スラッジ、ゼオライト土嚢等の回収・処理にて検討を進めている遠隔での回収・処理技術を活用・展開し、建屋内スラッジの回収・処理工法の確立やモックアップ等により作業成立性の検証を進めていく計画である旨を説明する。</li> </ul>	資料6-2
2	ALPS スラ リーの 安定 化 処理	2022年度内を目途にグローブボックス化案として示す全体工程には、運転開始までに必要な事項を含んだ全体工程を示すこと、その際には成立性を見極めについてホールドポイントを示すとともに、建屋内での配置等も早期に確認すること。 (第103回、第104回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローブボックスの採用に伴う、フィルタープレス機本体の小型・簡素化に際し、機器設計ならびに成立性の検討を実施中。</li> <li>設備の設計見直しに必要となる期間を踏まえた工程の見直し内容を説明する。</li> </ul>	資料5
3		現在のHIC 増設分だけで容量をカバーできるとは考えがたく、上記全体工程を示す際には、HIC 増設の判断もしくは判断をすべき時期についても示すこと。 (第103回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第105回検討会にて、HIC一時保管容量増設について、2024年度を目標に、計4576基まで保管容量を確保する計画を説明済。</li> <li>見直し後の予測に基づくと、4576基では保管容量が不足することから、4720基目までの保管容量の増設（144基分）を計画する旨を説明する。</li> </ul>	資料5
4	HIC 内ス ラ リーの 移 替 え	HIC の保管場所について、一時的な増設等を早急に検討すること。また、スラリー安定化処理設備が稼働した後も継続的に使用するボックスカルバートについては、HIC に内包されるインベントリやHIC の保管本数等を踏まえ、より堅牢な保管方法にするべく、時期を定めて、Ss900 に対する影響を確認するとともに、必要に応じて、補強策を含めた耐震性を向上した保管方法を検討すること。 (第102回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第105回検討会にて、HIC一時保管容量増設について、2024年度を目標に、計4576基まで保管容量を確保する計画を説明済。</li> <li>見直し後の予測に基づくと、4576基では保管容量が不足することから、4720基目までの保管容量の増設（144基分）を計画する旨を説明する。</li> <li>現在、Ss900での耐震評価方法について実施する準備を進めており、その結果をもって適切な保管方法とスラリー安定化処理設備によるHIC保管数の低減を含んだ一時保管施設の運用方法を設定していく旨を説明する。</li> </ul>	資料5

### 3. 第106回特定原子力施設監視・評価検討会で回答

	分類	コメント内容	回答	資料
5	海域モニタリングにおける魚OBT分析の検証	本分析についてはQMSの中に組み入れること。 (第104回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚試料のトリチウム分析手順は、昨年、分析を開始する際に制定済み。その手順に従って分析を行ったところ、OBTが実際より大きく測定されていた。</li> <li>その原因調査を実施し、対策を講じたうえで比較検証を実施し、分析手順書の改定を行う計画。</li> </ul>	資料6-3
6		測定数値のばらつきが大きいので、測定の不確かさを示すこと。 (第104回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>測定の不確かさについて、分析の品質を把握することを目的に、不純物除去が確立した当社手順での試験分析を例に評価したところ、作業に伴う不確かさは極めて小さく、対象試料が極低濃度であることから、計測の不確かさが支配的であった。</li> </ul>	資料6-3
7		新規の分析技術を取り入れる場合には、従来から実績のある分析機関と調整・比較を行うこと、また分析体制の強化にも反映すること。 (第104回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施計画にて設定した測定・評価対象核種には、Se-79とFe-55が含まれており、これら核種は新規分析技術になるため個別取組みを行っている。</li> </ul>	資料6-3

- 
1. 2022年度末までに回答の用意ができるもの
  2. 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメントの回答時期と対応状況
  3. 第106回特定原子力施設監視・評価検討会で回答
  4. 第105回特定原子力施設監視・評価検討会で回答
  5. 第5回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合で回答

## 4. 第105回特定原子力施設監視・評価検討会で回答

- 第105回特定原子力施設監視・評価検討会において、回答・一部回答したコメントを表の通り示す。

	分類	コメント内容	規制庁殿が回答を 求める時期	対応状況
1	1 / 3 号機格 納容器 水位低 下に向 けた取 り組み	1号機PCVについて、ROVによる調査中などを除き水位をなるべく低下させるとともに、損傷個所の特定等のためのROVによる調査を検討すること。また、損傷の程度、漏えい量等について注水量などを踏まえた定量的な評価を検討すること。また、原子炉建屋側への漏えい状況（トリチウム移行量や滞留水の状況等）も踏まえ推定すること。 (第99回、第102回)	2022年度下期に 回答を求めるもの	<b>第102回、第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第102回検討会にて、損傷の程度、漏えい量等について、注水量などを踏まえた定量的な評価については、S/C底部付近等に漏洩箇所がある旨を説明。</li> <li>第105回検討会にて、地震後におけるR/B地下滞留水のトリチウム濃度を確認を行った結果、漏洩箇所の推定につながる追加情報は得られなかった旨を説明。</li> <li>ROV調査期間以外は、注水量減少によりPCV水位をなるべく低下させている。損傷個所の特定等のためのROVによる調査については、現在実施中のROV調査の結果を踏まえ検討する旨を説明。</li> </ul>
2		3号機PCVの水位低下事象について、注水停止試験等も踏まえ、早期に水位を低下させること。その際、より低位置への水位計の設置要否についても検討すること。また、PCV水位低下に関する推定原因等について説明すること。 (第100回、102回)	2023年度上期に 回答を求めるもの	<b>第102回、第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第102回検討会にて、新設水位計設置を進めており、水位計設置後、PCV水位を低下させていくことを説明。</li> <li>第105回検討会にて、PCV水位低下に関する推定原因等については、滞留水のトリチウム濃度（R/B地下、PCV内、S/C内）の状況から、S/CまたはPCV底部において、漏洩面積が増加、または新たな漏洩が発生した可能性があることを説明。</li> </ul>

## 4. 第105回特定原子力施設監視・評価検討会で回答

分類	コメント内容	規制庁殿が回答を 求める時期	対応状況
3 廃棄物の 保管 管理	燃料デブリ、水処理二次廃棄物などインベントリが高い廃棄物の保管管理計画についても今後示すこと。 (第83回、第99回)	2022年度下期に 回答を求めるもの	<b>第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>燃料デブリについては、燃料デブリ取り出し準備工事等に伴い発生する廃棄物量について、設備等の解体における現時点での概算物量を試算し保管管理計画に反映した旨を説明。</li> <li>水処理二次廃棄物については、今後処理が必要となる汚染水量から想定される水処理設備の運転計画から、吸着塔類の発生量を予測し保管管理計画に反映した旨を説明。</li> <li>なお、今後の廃炉作業の進捗状況や計画等により変動するものであり、適宜保管管理計画を更新していく旨を説明。</li> </ul>
4	屋外保管しているものの管理適正化に向けた工程表について、2028年度屋外保管の解消という目標があるので屋内保管まで含めた具体的な工程を示すこと。 (第97回)	2022年度下期に 回答を求めるもの	<b>第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>保管管理計画（別添4（福島第一原子力発電所の固体廃棄物の保管イメージ））で説明済。</li> </ul>
5 増設雑 固体廃 棄物焼 却設備 の運転 状況	溶接部の亀裂等のトラブルの要因並びに運転停止期間及び運転停止に伴う廃棄物管理の全体計画に与える影響などを示すこと、他への展開を行うこと。 (第101回、第103回)	2022年度下期に 回答を求めるもの	<b>第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>増設雑固体廃棄物焼却設備は10月に運転再開。本設備にて伐採木の焼却処理を行っていき、処理期間には余裕があり、現時点では影響はないと評価した旨を説明。</li> <li>増設雑固体廃棄物焼却設備の溶接部亀裂等のトラブルに関する対応については、廃炉事業を着実に進める上で、一歩踏み込んで受注者の品質管理を確認するという観点で、新たに業務プロセス強化を図る。具体的には、リファレンス・プラント（1F設計の前提となる一般産業界等での実績）からの変更点を抽出し、変更内容に応じた受注者の品質管理計画および実施状況を確認するという業務プロセスの強化を検討中である旨を説明。</li> </ul>
6 固形状 の放射 性物質 の区分 等	現行の固体廃棄物の保管管理計画に入っていないものについて、全体像を明らかにするとともに、今後、その保管・管理方法の検討を進めること。 (第99回、第100回)	2022年度下期に 回答を求めるもの	<b>第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の廃炉作業の進捗状況や瓦礫等発生量の将来予測の見直し等を、適宜反映していく。また、これまで表面線量率を指標とした区分による管理をしてきたが、今後は廃棄物毎の分析により放射能濃度の把握を行い、特徴を踏まえて合理性を考慮した新しい管理区分を設定し、保管・管理方法を検討する旨を説明。</li> </ul>



## 4. 第105回特定原子力施設監視・評価検討会で回答

	分類	コメント内容	規制庁殿が回答を 求める時期	対応状況
7		建屋の水位を低下させたときに地下水の建屋流入量の変化を確認し、貫通部の位置など流入量抑制のためのデータを蓄積すること。 (第70回、第79回)	2023年度上期に 回答を求めるもの	<b>第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>建屋流入量は2号機及び3号機で多かったが、フェーシング等の対策を継続していく事で、2号機（10m<sup>3</sup>/日程度）3号機（20m<sup>3</sup>/日程度）抑制されている状況である旨を説明。</li> </ul>
8		凍土壁に代わる構造壁の設置や導入等、遮水壁の取扱いを含め建屋の根本的な止水対策について、いつ、どのように作成するのか全体の工程を示すこと。 (第78回、第90回、第99回)	2023年度上期に 回答を求めるもの	<b>第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて一部回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2028年度を目安に局所的な建屋止水と並行して建屋外壁部の全面的な止水工法に関して課題や必要な調査内容の検討を開始する旨を説明。</li> <li>まずは3号機原子炉建屋周辺を対象に今後のスケジュールを具体化していく旨を説明。</li> </ul>
9	地下水流入対策	建屋貫通部・建屋間ギャップなどの止水措置について、スケジュールを含め全体の計画を示すこと。また、2号機タービン建屋や廃棄物処理建屋などの止水措置も並行して検討を進めること。 (第99回)	2023年度上期に 回答を求めるもの	<b>第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2023年度は5、6号機で試験を行い、2025年度末までに3号機、その他号機はそれ以降の展開を予定する。</li> <li>2号機ブローアウトパネルは閉止済み。その他開口部も2023年度中に対策予定である旨を説明。</li> </ul>
10		3号機の排気筒下のレッドゾーン周辺の雨水対策（3号機屋根の雨水排水対策）として、瓦礫の撤去・フェーシングの実施等について早期に検討を進めること。 (第99回)	2023年度上期に 回答を求めるもの	<b>第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>サブドレンNo.40 で検出されたPCB含有油の拡散対策結果を評価の上、周辺工事（排気筒撤去等）と調整の上、2028年度までを目標にフェーシングを検討する旨を説明。</li> </ul>
11		遮水壁のブライン配管等の設備について補強等も含めて設計として改良点がないか検討すること。 (第99回)	2023年度上期に 回答を求めるもの	<b>第105回特定原子力施設監視・評価検討会にて一部回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>全ジョイント（458箇所）の遊間計測中。直ちに漏えいリスクがある個所はなかったが遊間が大きい個所は認められた。</li> <li>今年度内に2回目の全箇所計測を行い、改良点を検討していく。</li> </ul>

- 
1. 2022年度末までに回答の用意ができるもの
  2. 「2022年度下期に回答を求めるもの」の残件コメントの回答時期と対応状況
  3. 第106回特定原子力施設監視・評価検討会で回答
  4. 第105回特定原子力施設監視・評価検討会で回答
  5. 第5回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合で回答

## 5. 第5回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合で回答

- 第5回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合において、回答したコメントを表の通り示す。

	分類	コメント内容	規制庁殿が回答を 求める時期	対応状況
1		Cs-137 以外の核種についても、分析結果に応じて閉じ込め機能等における考慮を示すこと。 (第103回)	2022年度下期に 回答を求めるもの	<b>第5回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第5回 1 F 技術会合にて、Cs-137 以外の核種も含めた分析結果を説明している。</li> <li>主たる核種はCs-137であることを確認しており、それに応じた閉じ込め機能等を考慮している旨を説明。</li> </ul>
2	ゼオライト土 囊等の 処理	ストロンチウムが含まれる場合遮蔽設計に制動放射の影響を考慮すること、また約100 基発生するとしている保管容器の保管施設についても適切な遮蔽設計を行うこと。 (第103回)	2022年度下期に 回答を求めるもの	<b>第5回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合にて回答済</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>第5回 1 F 技術会合にて、Sr-90による制動放射を含めた線量影響評価は今後実施予定である旨、説明済。</li> <li>Sr-90はCs-137より1桁小さいことを確認しており、Sr-90の制動放射による線量影響は小さいと想定している旨を説明。</li> <li>なお、容器形状の変更に伴い、発生本数は40本程度となる見込みであり、適切な遮蔽設計も行っている。</li> </ul>